

身近な  
歴史から学ぶ  
デザイン

語り継がれる偉業と感動

## 冬から春へ

今年は大雪もあり冬らしい冬を過ごして参りましたが、散歩をしていると足下に柔らかな緑色の新芽が見え、暖かな春を感じるこの頃です。水戸市の偕楽園では梅まつりがはじまり、梅の香漂う一層の春を満喫することができます。

梅は春のさきがけ  
水戸は天下のさきがけ

先の震災で大きな被害を受けた偕楽園と弘道館。私は弘道館の修復工事を1年にわたって撮影してきました。歴史の一部として語り継がれていく修復現場に足を運び、実際に触れ感じた古き良き記憶を心に刻みます。

開館から170年余、天保12年(1841年)に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公は水戸藩の藩校「弘道館」を創建しました。その翌年天保13年(1842年)に同

じく徳川斉昭公により「偕楽園」が造園されました。

弘道館が卒業のない厳しい文武修行の場であるのに対し、偕楽園は仕事や修行の合間に休息し、心身保養の場として創設したもので、人が正しく生きる上で大切な「緊張感とリラクセス」。

齊昭公はこのことを、「一弛一弛」「一馳一息」と説いています。緊張感漂う「弘道館」と心からリラクセスできる「偕楽園」。

対になっている両施設を訪れてこそ「水戸藩の歴史を見た」といえるのかもしれませんが。弘道館には60品種・約800本、偕楽園100品種・約300本の梅が咲き、白梅・桃梅・紅梅・枝垂れ梅・ねじれた老梅など満開の梅は圧巻の一言に尽きます。

齊昭公は冬の寒さに耐え、春に先駆けて咲く梅を愛したと言います。人生は良いことだけではありません。苦しいことや辛いことから逃げずに耐えしのんだ先に、明るい未来が待っているのではないのでしょうか。

## 水戸の歴史を世界遺産へ

都市型公園として世界的にもも広大な面積を誇る偕楽園。さらめく千波湖を眼下に、先に春を感じる満開の梅で人々を楽しませ、永きに渡り心休める環

境を創造した齊昭公の偉業こそ170年前のランドスケープデザインといえるのではないのでしょうか？

人々の共感を誘い170年以上経った今でも全国から毎年100万人もの観光客が訪れ、公園としての格調の高さを堪能されていることと思います。

今、この水戸の歴史といえる弘道館と偕楽園を世界遺産に登録しようと取り組んでいることをご存知ですか。水戸黄門でお馴染みの第2代藩主徳川光圀公が手掛けた「大日本史」の編さん事業から、歴史が脈々と受け継がれ第9代藩主斉昭公の弘道館と偕楽園の創設という集大成に至った水戸の近世教育を、弘道館の復興をもって「水戸藩の学問・教育遺産」として世界遺産登録を目指しているということです。

いまだに多くの人々を感動させ、こうした取り組みへと突き動かす歴史こそがデザインといえます。

我々も日々の業務の中で求められるものを形にし、喜ばれることで達成感を感じることができま。偉大な徳川斉昭公も、この水戸の地で未来を見据え人々の喜ぶ顔を思い浮かべていたのかと思います。人々の誇りを未来に伝え、豊かな世界を作っていくことがデザイナーの使命ではないのでしょうか。

(企画制作部 田口一寿)

行政・中小企業向け

文化メディアワークス

自社スタッフが  
講師です！

現場のプロを派遣！ 029(221)4813

ビジネスセミナー・研修・講座

「デザイン × 教育」  
二つのスキルで  
お客さまのお役に立ちます。

## ●デザイン 企画立案からデザインまでワンストップでプロデュース！

企業のブランディングから、商品開発、農産物直売所POPや売場レイアウト、ツール制作など少人数から受け付けています。  
(茨城県・栃木県・各種団体等の実績あり)

## ●教育 各種プロスタッフやキャリアコンサルタントが丁寧に指導！

ビジネスマナーや接客接遇、PCスキル(Microsoft Office、デザイン系ソフト)社内広報、その他ビジネススキル、PCリテラシーまで幅広くお応えします。